

学生数 (平成29年4月1日現在)

学 科	定員	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	40	44	44	44	45	47	224
電気電子工学科	40	43	47	46	38	40	214
電子情報工学科	40	45	48	41	35	38	207
生物応用化学科	40	45	47	44	36	42	214
材料工学科	40	41	45	42	44	40	212
合 計	200	218	231	217	198	207	1,071

専攻科	定員	1年	2年	計
総合イノベーション工学専攻	24	30	-	30
電子機械工学専攻	12	1	16	17
応用物質工学専攻	8	-	13	13
合 計	44	31	29	60

卒業後の主な進路 (過去3年間)

○進学先 学科

鈴鹿高专 専攻科、北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、東京工業大学、横浜国立大学、長岡技術科学大学、金沢大学、福井大学、岐阜大学、静岡大学、名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、三重大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、奈良女子大学、九州大学、広島大学、立命館大学 他

専攻科

筑波大学大学院、千葉大学大学院、東京工業大学大学院、名古屋大学大学院、名古屋工業大学大学院、三重大学大学院、大阪大学大学院、九州大学大学院、北陸先端科学技術大学院大学、早稲田大学大学院 他

○就職先 学科

アイシン精機、旭化成、出光興産、井村屋、AGF 鈴鹿、NGK、NHK、大阪ガス、花王、カゴメ、関西電力、川崎重工業、麒麟ビール、コスモ石油、サントリープロダクツ、JSR、JR東海、JR東日本、資生堂、昭和四日市石油、新日鐵住金、住友電装、タイキン工業、中外製薬工業、中部電力、東京ガス、東京電力、東芝、東ソー、東邦ガス、東レ、TOTO、豊田中央研究所、ナブテスコ、ニコン、日本たばこ産業、パナソニック、富士ゼロックス、富士通、ブラザー工業、本田技研工業、三菱金属工業、三井造船、三菱重工業、三菱電機ビルテクノサービス、明治、ヤクルト、矢崎総業、ヤマザキマザック、ヤマハ発動機、LIXIL、ロート製薬 他

専攻科

アイシン精機、旭化成、川重岐阜エンジニアリング、川崎重工業、協同油脂、コロプラ、昭和四日市石油、住友電装、DIC、トヨタコミュニケーションシステム、日東電工、日立製作所、FIXER、ヤマザキマザック 他

沿革

昭和37年 4月 1日 鈴鹿工業高等専門学校の設置(機械工学科、電気工学科、工業化学科の3学科で発足)

昭和41年 4月 1日 金属工学科を設置

昭和61年 4月 1日 金属工学科を材料工学科に改組

平成元年 4月 1日 電子情報工学科を設置

平成 2年 6月 5日 アメリカ・オハイオ州立大学工学部と学術交流協定を締結

平成 3年10月 9日 カナダ・ジョージアンカレッジと学術文化交流協定を締結

平成 5年 4月 1日 専攻科(電子機械工学専攻、応用物質工学専攻)を設置

平成 9年 4月 1日 工業化学科を生物応用化学科に改組、生物化学及び応用化学の2コース制を開設

平成14年 4月 1日 共同研究推進センター発足

平成15年 4月 1日 電気工学科を電気電子工学科に改組

平成16年 4月 1日 文部科学省から独立行政法人国立高等専門学校機構へ移管

平成16年 5月10日 技術者教育プログラム「複合型生産システム工学」が日本技術者教育認定機構(JABEE)から認定 平成18年 3月20日 高等専門学校評価基準を大学評価・学位授与機構から認証

平成18年 4月18日 中国・常州信息職業技術学院と学術文化交流協定を締結

平成19年 4月 1日 一般科目を教養教育科に改組

平成24年11月 3日 創立50周年記念式典を挙行

平成24年11月26日 大阪大学工学部・大学院工学研究科と教育研究交流に関する協定、実習生派遣に関する覚書を締結

平成25年 3月27日 高等専門学校評価基準を大学評価・学位授与機構から認証

平成29年 4月 1日 専攻科(電子機械工学専攻、応用物質工学専攻)を1専攻(総合イノベーション工学専攻)に改組

施設紹介

図書館

所蔵図書は約10万冊あり、専門図書に限らず一般図書も多数所蔵しています。
また、一般の方々へ生涯学習の場として開放しています。

開館日 平日 9時～20時30分
土曜日 9時～17時

休館日 日曜、祝日

(学生イベント、夏季休業期間等で休館日・時間の変更がありますので、ホームページか電話で確認してください)

<連絡先> 図書館 Tel: 059-368-1733



学寮

構内に4棟からなる学寮があります。各居室にはエアコン、有線LANが整備され、寮生は恵まれた環境の中で勉学に励み、快適な共同生活を送っています。

学寮は、友愛、協力、自立の精神を培い、技術者として必要な資質を養うための教育施設でもあります。そのために、毎日、教員が当直寮監として指導にあたり、規律ある生活ができるように配慮されています。



研究施設等

- ◆共同研究推進センター
- ◆情報処理センター
- ◆青峰会館(学生食堂他)
- ◆クリエイションセンター
- ◆イノベーション交流プラザ 他

○敷地面積 120,551平方メートル

○建物延面積 39,393平方メートル